

## 『建物長寿命化研究会ドットコム』会員会社の、社員と作業員の教育について

近年、高度経済成長時代に建設された建物や橋、社会インフラの老朽化が問題視されることが多くなりました。それまで建設業は「ものづくり」の代表として、さまざまなものを「つくって」きました。「つくる」だけでなく、当然「維持する」ことも行っておりましたが、それはどちらかと言うと「日の当たらない」裏方の仕事でした。数は少ないですが、私たちメンバーも、もちろん「つくる」現場でお世話になったことがあります。

「つくる」現場では、元請会社の下に多くの協力業者がいます。元請会社の監督さんがお互いの調整をしながら、ビルやマンションなどをつくり上げていくのです。

私たち、『建物長寿命化研究会ドットコム』の「維持する」現場では、基本的に「つくる」と同じような形態で作業を行うのですが、ひとつ大きな違いがあります。それはマンションでは「住んでいる方がいる」、ビルや橋では「利用する方がいる」ということです。これらの方々の「迷惑にならないように」、「危険が及ばないように」するのが「当たり前」なのです。「当たり前」であるがゆえに評価はされにくいですが、私たちメンバーは、このポイントを必ず周知させる教育を行っています。また、居住者の方々からの問い合わせに対して、わからないことでも丁寧に受け答えをするように教育しています。

単に技術だけなら、現場を運営することや先輩社員から教えてもらうことで上達できますが、それ以外にも私たちは、居住者の方々や、通りすがりの方々とのコミュニケーションを大切にしています。これは新入社員、熟練社員の区別はありません。この点で、長い業界実績のある私たちメンバー各社と、流行に乗った会社との「対応の差」を感じていただけたと思います。

仮に、新築マンションの建設中に死亡事故が起こっても、完成後に住む方々にはわからないかも知れません。作業現場でそのような事故が起こった場合、作業者は社会的な責任を負うことにはなりますが、現場を離れることができます。しかし、居住者の方々はそのに住み続ける限り、「ここで事故が起きた」という事実から、逃れることはできません。

そのようなことが起きないように社員教育や安全教育をしっかりと行って、

### 「誰も事故に遭わない現場」

をスローガンに掲げて、作業を行っています。